

学校だより

6月号



三中HP

教育目標

それゆけ三中

令和3年6月2日
足利市立第三中学校
生徒数：190名
発行者：高木秀和

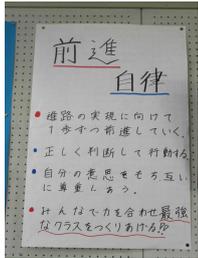
教育目標：より確かに・より豊かに・より遅しく



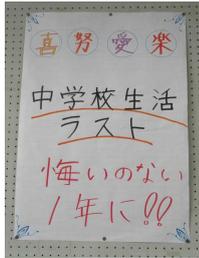
梅雨入りし、雨の日には学校もしっとりと落ち着いた雰囲気になっています。空模様が不安定で、晴れ空から落ちる雨、逆に、ずっしりとした灰色の雲間から差し込む光、真夏の翌日には、また肌寒い夜風と、季節の変わり目の中で、突き抜ける青空と眩しい白雲の夏を迎える前の、過渡期なのかとも思えます。子どもたちも不安定な時期、特に、小学校高学年から中学生の時期を経て、少しずつ身体と心のバランスが整っていく、その様と空模様を比べてしまいます。



第3学年全体での進路学習



3年1組



3年2組

さて、今月より各学級の思いを込めたクラス目標を紹介していきます。まずは、3年生です。3年1組、「前進 自立 ・進路の実現に向けて1歩ずつ前進していく。」

・正しく判断して行動する。 ・みんなで力を合わせ最強なクラスをつくりあげる！！、3年2組、「喜努愛楽 中学校生活ラスト 悔いのない1年に！！」です。最上級生としての自覚とこの1年にかけての思いが伝わってきます。3年生は、1組担任兼進路指導主事の先生から、学年のスタート時期に進路についての話を聴いて、気持ちも行動もシャキッとし、学習や部活動に励んでいます。来月は、2年生、1年生の学級目標を紹介します。

春季体育大会地区予選会 5/14 (金) ~ 15 (土)



コロナ禍における制約のある中ですが、本年度は春季大会が各専門部の努力により開催されました。参加人数や競技形式を工夫して、今できる最善を尽くした大会でした。特に2日目は、2、3年生のみの競技も多かった様です。どの部も、日頃の練習成果を発揮すべく、真剣な眼差しで、勝負に臨んでいました。

また、選手だけでなく、チームとして、審判をしたり、荷物の管理をしたりして全員が気持ちを一つに三中として動く姿を、何よりも美しく、誇らしく思いました。

保護者の皆さまの見学・応援もできない状況を申し訳なく思いますが、続く夏の総体も同様の形式になることが予想されますので、ご理解・ご協力をお願いします。

中学校特別支援学級卓球大会 5/18 (火)



昨年は中止になった大会でしたが、規模を縮小し実施内容に工夫することで、無事に大会を運営できました。外は雨で、少々肌寒さも感じる日でしたが、市民体育館の中は熱気に溢れていました。授業で練習してきたこと、学んだことを丁寧に再現し、一試合一試合、その一振りに全力をのせ頑張っていました。PTA 役員さんや手をつなぐ親の会の皆さんにも、審判協力、応援をいただきありがとうございました。



◎野菜や花を、みんなで、本格的に栽培しています。植物は優しく丁寧に反応し、すくすくと育っています。



指導法研修(かなぶり松訪問) 5/12 (水)

生徒の皆さんが、「自分で学び、自分で考え、自分で表現できる」ようになることを目指して、先生方も日々研修に取り組んでいます。この「かなぶり松訪問」は、足利市教育委員会事務局が学校を支援する目的で実施されています。今回は、1年2組数学の授業を 先生が、3年男子体育の授業を 先生が実践しました。

先生も 先生も、生徒みなさんの目線で「わかる、できる授業」を考え工夫し、皆さんの学び力を育む素晴らしい授業を実践をしました。



第1学期中間テスト 5/20、21 (木、金)

第1回目の定期テストを実施しました。昨年度は、コロナ禍での変更が余儀なくされましたが、本年度は、計画に沿って年間5回の定期テストを実施します。1学期(中間・期末)、2学期(中間・期末)、3学期(学年末)と、皆さん自身の学習成果を見る機会として、計画的に学習して臨んでください。

テストバッテリー(1年生) とちぎっ子学習状況調査(2年生)

全国学力学習状況調査(3年生) 5/27 (木)

これらのテストは、各学年ごとに、自分や学年全体の学力を客観的に見て、その結果から、日々の学習活動での課題を見つけ、克服することを目的に実施しています。

資源回収 5/13 (木)

今回も、アルミ缶や段ボール、新聞紙をたくさんいただきました。水で濡がれた缶やペットボトル、まとめられた新聞が大半で、短時間での生徒の回収作業も、安全で効果的に行えました。持ち込まれた資源一つにも、皆さんの気配りを感じます。本当にありがとうございました。

教育実習スタート(前期) 5/10(火)より前期の教育実習が始まりました。

1学期は、養護実習の 先生(実習学級1年2組)と、英語実習の 先生(実習学級1年1組)の2人が1ヶ月の実習です。先生と先生は、看護師を目指すための、短期で3日間の実習です。授業や



給食、昼休み、そして部活動といういろいろな場面で実習の先生と触れ合っ、その先輩の学ぶ姿に皆さんも学んでください。



「当たり前」の素晴らしさと『凡事徹底』

6月 学校集会より要約

2014年、サッカーワールドカップ、ブラジル大会で日本人サポーターの行動が注目されました。サポーターは、客席を日本代表チームと同じ「サムライブルー」に染めるために青いビニール袋を使用していました。試合後、サポーターはそのビニール袋を活用し、ゴミを拾い、後片付けをしてからスタジアムを後にしました。この行為が絶賛されることとなります。地元の新聞は「日本代表チームは敗北したが、応援団のカリスマ性はブラジル人の心をつかんだ」と報道し、リオデジャネイロ政府は、その行為を称えるため、サポーター代表としてリオデジャネイロに駐在している日本総領事など数人を表彰しました。「言葉が通じなくても動作だけで素晴らしさが伝わってきた。日本人の行動は文化的な遺産だ」という賞賛の言葉もいただきました。この活動は日本が初めてワールドカップに出場したフランス大会から行ってきた「当たり前のこと」だったのです。でも、この当たり前のことができないのが現実なのです。だからこそ新聞で紹介されたのです。では、なぜ日本人サポーターは「当たり前」にできるのでしょうか。自分のことよりも周囲の人のことを優先して考えることができるからです。そこには、「感謝」や「思いやり」といった気持ちが強く含まれています。先日、事務の 先生が出張のため、図書室前廊下と職員トイレ等の清掃監督をできない日がありました。先生と、先生が、掃除分担を変更しようかと相談していたのを、たまたま耳にしたので、「いつも通りで大丈夫ですよ」と、清掃監督を引き受けたのです。しかし、翌日、そのことを全く忘れていました。何度か、校長室を出入りして、長い廊下をいつもの様にスタスタと素早く中腰で拭いていく生徒や、廊下の隅を丁寧に拭き取る生徒、いつもの掃除の光景が目映っていました。事務室前で反省会が終わるとき、ちょうど図書室前でも反省会が終わったようで、その瞬間、そこに 先生がいないことに気づいたのです。「一緒に掃除は見ておきますよ」などとドヤ顔で言った自分が恥ずかしく情けなくなりました。しかし、生徒の皆さんは、先生がいないなくても、「当たり前」に掃除していました。見張られているからやるのではなく、廊下やトイレ、図書室をきれいにしたいという気持ちがあったのです。先生がついていなければ、遊んだりサボったり、それは仕方ない、普通のことだと思い込んでいたことも反省しました。もっと、生徒皆さんの、「当たり前」を「当たり前に行く」素晴らしさに気づくべきだったのです。

日本を美しくする会相談役の鍵山秀三郎さんは、『凡事徹底』と言う言葉で「平凡を非凡に務めること」の大切さを伝えています。「当たり前」のことを続けることは、結構難しいことなのです。簡単そうに見えますが、時折、自分のことを優先してしまうと、ゴミを拾わなかったり、靴を揃えたりできないことがあります。「自分のために」ではなく「誰かのために」の気持ちをもって生活することが何よりも大切です。今、三中の皆さんが、このことをしっかりとできていることを、大変嬉しく思います。

はいうんひ まとい かおよせ えんらい あし とまり ひたいう つあまつぶかるく ゆめうつするかた あじさい
 灰雲緋を纏いムッと顔寄せ 遠雷に足は停まり 額打つ雨粒軽く 夢映す路肩の紫陽花

